



【Check - 評価】

(1)前年度評価シートの改善内容の実施状況

平成19年度の改善予定	平成19年度の改善結果
事業コストの見直しのため健診委託先の検討を行う。	入札したことにより一人あたりの事業コストを縮減した。 一人あたりの事業コスト 18年度 10,851円 19年度 8,585円

(2)事務事業の評価

評価の視点	評価のポイント	評価	理由
妥当性	事務事業を実施する必要があるのか	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当ではない	メタボリックシンドロームに着目した健診(特定健康診査)が20年度から始まるので、その対象になる前の年代での意識付けとして必要である。
	町が主体となって実施する必要があるのか	<input checked="" type="checkbox"/> 町が行わなければならない <input type="checkbox"/> 町が行った方がよい <input type="checkbox"/> 町が行うべき必然性が低い	個人が自覚して人間ドック、歯科健診(口腔ケア)等を受診すれば良いが、フリーター・ニートなどが増加傾向にあるこの年代の健診にかかる経済負担の軽減は町でなければできない。
有効性	対象者の満足度や事業の達成度はどうか(成果指標の状況)	<input checked="" type="checkbox"/> 十分成果が上がっている <input type="checkbox"/> 成果は十分とはいえない <input type="checkbox"/> 成果は上がっていない	受診が徐々に増え、健診として定着してきている。特定健診年代になってからの生活習慣改善よりも早い段階で改善につながれば、病気の危険度が減少する。脳ドックは受診者が少ない。
効率性	事業費に無駄はないか	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 適切だが改善の余地がある <input type="checkbox"/> 効率的でない	入札を実施したことにより、一人あたりの委託料が減った。受診時間短縮のため、当日受付を事前申込みに、問診票・採尿容器を送付できるように検討する。受診当日に実施していた問診を簡素化する。

【Action - 改善】

(1)事務事業を進めていく上での課題、解決に向けての改善内容

	課題	平成20年度	平成21年度以降
妥当性			
有効性	結果が単年表示、前回データとの比較ができない為、見直しが必要。脳ドック受診者が少ない。	健診業者が使用している結果表の様式を参考に検討する。19年度基本健診結果分のドック実施する。	結果表様式の変更を行う。脳ドックを廃止する。
効率性	主に検査委託コストを見直す。実施当日に受診者がスムーズに受診できる体制づくり、問診の簡素化を図る。	入札の実施、事前申込制に変更、会場配置の工夫、健診時相談から健康相談や健康教育への連携	データの経過管理をふまえて同じ事業者で対応する。

(2)事業の今後の方針(課長による評価)

活動指標の目標	<input type="checkbox"/> 高める <input checked="" type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	受診勧奨は、人口推移により低下。受診者数に対して6回の実施回数で対応できている。
成果指標の目標	<input type="checkbox"/> 高める <input type="checkbox"/> 設定どおり <input checked="" type="checkbox"/> 下げる
理由	受診者数を対象者の5%としていたが、人口推移に合わせて目標値を見直す。
事務事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小・廃止・終了 <input type="checkbox"/> 統合
理由・内容	自分の健康に関心を持ち、生活習慣(食生活・喫煙)を改善するため、年に一回の健診機会を提供する。受診結果により自分自身の健康度を把握し、自己の健康を保持するために今後も継続して必要。

部長確認	和田 広道	確認日	2008/10/15
------	-------	-----	------------